

資料と公共性 : 2022年度研究成果年次報告書

岡崎, 敦
九州大学大学院人文科学研究院

清原, 和之
島根大学学術研究院人文社会科学系 : 准教授

村野, 正景
京都文化博物館 : 学芸員

市沢, 哲
神戸大学大学院人文科学研究科教授 : 教授

他

<https://doi.org/10.15017/6770679>

出版情報 : 2023-03-10. 九州大学大学院人文科学研究院
バージョン :
権利関係 :

2. シンポジウム『歴史総合』の行く末 ―教員志望学生と現場教員による 試論―

(第21回九州西洋史学会若手部会 [大学間交流部門])

日程：2022年8月21日（日）13時～15時30分

会場：Zoom オンライン開催

プログラム

1. 報告

第Ⅰ部：教員志望学生による課題本のレジュメ報告

第1報告：「歴史総合」とは何か

―考え方と参考文献紹介―（高橋 毅/九州大学修士2年）

第2報告：産業革命を核とした「大項目 B. 近代化と私たち」の授業計画

―生徒の「当たり前」の問い直しと「歴史的思考力育成」を目指して―（同上）

第3報告：感染症の歴史と現代社会への気づき

―カスタマイズする授業―（松本 大輝/九州大学修士1年）

第Ⅱ部：新人高校教員による「歴史総合」実践の報告

第4報告：歴史教育における評価と思考活動の実践

―教科書・資料集を中心として―（梅田 幸乃/福岡県立城南高等学校教員）

2. 質疑応答、総合討論

このシンポジウムは、九州西洋史学会の下部組織である若手部会が毎年開催している研究会の一環として、若手研究者自身の企画で開催されたものである。Zoom を利用した全面オンラインにより、全国から多数の参加者を得て催された。当日は、九州大学大学院人文科学府修士課程の高橋毅氏の司会進行のもと、4名の報告者により多様な論点が提示され、総合討論では活発な議論が展開された。企画の趣旨や当日の様様については、高橋氏による「総論」をご参照いただきたい。

このシンポジウムは、共同研究代表者が代表理事を務める学会の活動の一部であり、また、代表者が教育を担当している九州大学の学生、卒業生による企画、運営になる。共同研究自体、九州大学における研究・教育等と連携しながら展開してきたことから、今回、その内容を共同研究の報告書で公開するものである。

高橋毅氏は、九州大学大学院人文科学府西洋史学専修の大学院生として近世イギリス帝国史を研究しながら、中等教育で歴史教育を担当する教員を目指している教員候補者でもある。歴史教育に関する様々な研究会へも積極的に参加しながら、問題関心を研ぎ

澄ませつつ、今回の企画を中心的に運営した。松本大輝氏も、同じく九州大学大学院西洋史学専修の大学院生で、イギリス近代史、特にパブリック・スクールを研究している。高橋氏と同じく、中等教育の現場で歴史教育に携わることを目指している。梅田幸乃さんは、九州大学文学部西洋史学専門分野においてフランス近世史を学び、現在は現役の高等学校教諭としてご活躍である。以下は、当日の報告をもとにしながら、各報告者が新たに書き下ろしたものである。

本報告書では、さらに、当日のシンポジウム、その後の懇親会における議論にもご参加いただいた、国立公文書館アジア歴史資料センター研究員の石本理彩さんに、新たにご寄稿をお願いし、ご快諾を得た。「歴史総合」で強調される「歴史的思考力」の前提にあるのが「資料の収集と活用」であり、そのためには「資料の適切な管理と提供」基盤が不可欠である。「歴史総合」が抱える問題を、資料・情報管理という本研究のテーマとの関係で考えるための重要な論考であり、シンポジウムの諸報告と合わせてご参照いただきたい。